

令和元年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	11	学校名	藤枝特別支援学校 焼津分校	校長名	木川 誠
------	----	-----	---------------	-----	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	人権意識を高める	アンケートによるいじめの兆候に対する早期発見、早期対応 100%	アンケートによるいじめの兆候に対する早期発見、早期対応 100%	A	<ul style="list-style-type: none"> アンケートから兆候や悩みのある生徒に対して、聞き取り、面談、実態把握をした。学年で共有し、環境設定を見直した。 兆候や悩みのある生徒はゼロではないので日常観察の中で言葉かけをしていく。
イ	生徒自身の命を守る意識と行動力を育む	通学途上の自転車交通違反 0 地域での防災訓練参加 70%以上 安全で早い避難の実施避難完了 3分以内	通学途上の自転車交通違反 0 地域での防災訓練参加 67% 安全で早い避難の実施避難完了 3分以内 達成 33%	B	<ul style="list-style-type: none"> 通学中の交通事故はない。 防災訓練などで注意喚起を行い、命を守る意識を養うことができた。 くり返し防災訓練を行うことで、命の大切さや避難経路などを確認することができた。 地域防災については面談で協力をよびかけていく。 防災訓練時にはどのような行動を取れば良いか考えさせたい。
ウ	性についての正しい理解を図る	思春期の心と身体の変化について理解できた生徒 100%	思春期の心と身体の変化について理解できた生徒 75%	B	<ul style="list-style-type: none"> 養護教諭と連携し心と身体つながりについて指導することができた。 他者との関わり方を指導しているが、正しい理解に至らない。
エ	業務改革による多忙化解消を図る 「効率よくかつ迅速に、なごやかでおだやかな職場づくり」	1日1時間は授業準備時間の確保、満足する授業ができた教員 100% ゆとりを持って授業準備ができた教員 100%、週1回定時退勤した教員 100%	1日1時間は授業準備時間の確保、満足する授業ができた教員、ゆとりを持って授業準備ができた教員、週1回定時退勤した教員まとめて 56%	C	<ul style="list-style-type: none"> 学年で空き時間の調整をした。 水曜の定時退勤はできた。 空き時間を確保できていないときがある。 急な予定変更が多く把握しきれない。 計画的な指導と教員同士の報連相が大事。
オ	生徒主体の授業づくりに取り組む	「何をどのようにわかったか考えたか言えるかける生徒」100% 「自分の良さ・得意がわかる生	「何をどのようにわかったか考えたか言えるかける生徒」100% 「自分の良さ・得意がわかる生	A	<ul style="list-style-type: none"> 丁寧な PDCA サイクルで授業改善できた。 全員の聞き取りを年2回実施できた。 全ての授業で行えていないので、今後の研修で深めていきたい。

様式第3号

		徒」100% 「自分の課題がわかる生徒」100%	徒」96% 「自分の課題がわかる生徒」98%		・自己肯定感と自己評価は相関性があるので学年主任と連携をとって日常観察をして必要に応じて言葉かけをしていきたい。
カ	個々の専門性を向上させる	研修を授業や指導に生かし、生徒の成長を実感できたとする教員100%	研修を授業や指導に生かし、生徒の成長を実感できたとする教員67%	B	・授業研、自分の強みを理解した生徒の発言、表情、感想をみて、成長を感じることができた。 ・研修を指導に生かすことができなかった。
キ	自己肯定感を高める	「学校に居場所がある」「相談できる友達や教員がいる」と評価する生徒100%	「学校に居場所がある」「相談できる友達や教員がいる」と評価する生徒80%	A	・色々な場面で生徒が役割を果たして成長していくのを感じた。 ・自己肯定感と自己評価は相関性があるので学年主任と連携をとって日常観察をして必要に応じて言葉かけをしていきたい。
ク	働き続けるための体力を育てる	走力、投力の向上80%以上	走力の向上81%、投力の向上77%	B	・肩の可動域を広げるストレッチを行った。 ・部活は一生懸命やる生徒が多いので、トレーニングや体育でも精一杯取り組んでほしい。
ケ	ケ：水産高校及び焼津地域での共生・共育を進める	焼津市ボランティア登録の生徒の平均参加回数2回以上	焼津市ボランティア登録の生徒の平均参加回数2回以上33%	C	・生徒に考えさせ実践させる場を設定することができた。 ・分校として積極的に地域と関わる姿勢は継続していきたい。
コ	コ：進路先の確保と就労希望の生徒の就職を実現する	圏域関連諸機関と連携を密に進路決定までの道筋を計画的に示し、進路先の確保及び希望者の就職率100%	圏域関連諸機関と連携を密に進路決定までの道筋を計画的に示し、進路先の確保及び希望者の就職率94%	A	・生徒や保護者の希望や担任の意向を学年会で確認し実習先を確保した。 ・適性に合った進路先を探した。 ・希望に添えないこともあった。
サ	サ：将来の生活を具体的にイメージできるようにする	保護者や生徒のニーズに答え、卒業後の生活を見据えた支援ができたとする教員100%	保護者や生徒のニーズに答え、卒業後の生活を見据えた支援ができたとする教員71%	B	・日常的に意識して取り組めた。 ・教員や生徒本人と目標を確認する機会を増やしたい。